

第3章 現場検証 ～中海・宍道湖・大山圏域におけるモデル調査より～

第1節 仮想中間支援組織の構成と活動経過

(1) 仮想中間支援組織の構成

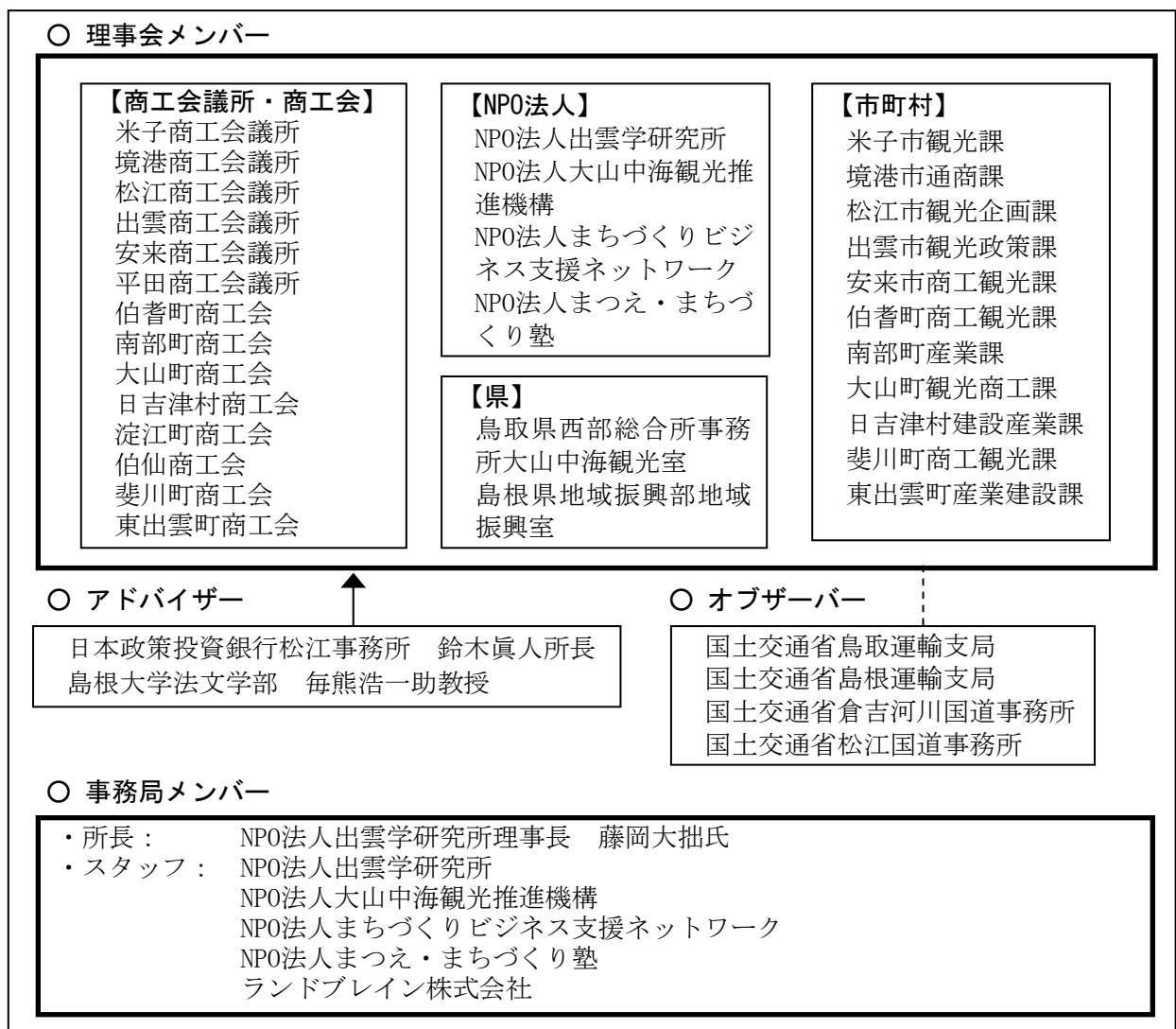
仮想中間支援組織については、前出のとおり理事会と事務局で構成する。

市町村については、企画部門と観光部門の参加が考えられるが、今回は観光を中心とした地域振興のモデルについて検討するため、観光を所管する部署の参加を呼びかけた。

NPO法人及び所長については、関係者へのヒアリングを通して、地域振興に向けて積極的に取り組んでいる団体を事務局スタッフとして、また知名度のある方を所長として選定した。

- ・ NPO法人出雲学研究所 : 出雲地域を中心に、歴史の普及啓発を展開
- ・ NPO法人大山中海観光推進機構 : 観光情報の収集・発信を積極的に展開
- ・ NPO法人まちづくりビジネス支援ネットワーク : 島根を拠点に全国規模でビジネス支援を展開
- ・ NPO法人まつえ・まちづくり塾 : 松江市を中心に決め細かなまちづくりを展開
- ・ 藤岡大拙氏 : 元大学学長・郷土史家・財団代表・NPO法人代表等、肩書きを多く有され、本圏域全域において知名度が高い

■ 仮想中間支援組織の理事及び事務局の構成



(2) 仮想中間支援組織の設立と活動の経過

パイロット事業の検討や進捗状況に応じて、随時、理事会や事務局会議を開催しながら各種取組みを展開し、中間支援組織のあり方について検討した。

～ 調査開始 ～

- 地元活動団体（自治体やNPO）への個別趣旨説明、参加の呼びかけ、ヒアリング

10/11 理事会設立準備会（出席者：自治体、商工会議所・商工会、NPO、アドバイザー等）

- ・ 調査趣旨の説明
- ・ 仮想中間支援組織の説明と理事会への参加要請

同日 事務局設置準備会（出席者：NPO等）

- ・ パイロット事業の目的の説明
- ・ パイロット事業の企画検討と事業展開に関する議論・検討の進め方

- 事務局スタッフ構成の調整と役割分担、パイロット事業の企画案の検討・調整

11/08 事務局全体会議

- ・ パイロット事業の企画案の検討・調整

11/16 第1回理事会

- ・ 仮想中間支援組織の設立
- ・ パイロット事業企画案の検討進捗状況の報告と意見交換

- パイロット事業の企画案の再検討・調整と一部事業の着手

12/15 第2回理事会

- ・ パイロット事業企画案の検討進捗及び事業進捗の報告と意見交換
- ・ これまでに見えてきた中間支援組織の課題の提示と意見交換

- パイロット事業の本格展開

12/25 事務局全体会議

- ・ パイロット事業の実施に向けた調整

3/ 8 第3回理事会

- ・ パイロット事業の成果報告・意見交換
- ・ 本圏域において中間支援組織が担うべき機能と構築のあり方

第2節 仮想中間支援組織が実施するパイロット事業の内容とその成果

今回実施するパイロット事業については、前章の論点・検証事項を踏まえて、仮想中間支援組織の理事会及び事務局で議論を繰り返した結果、以下のとおり設定した。

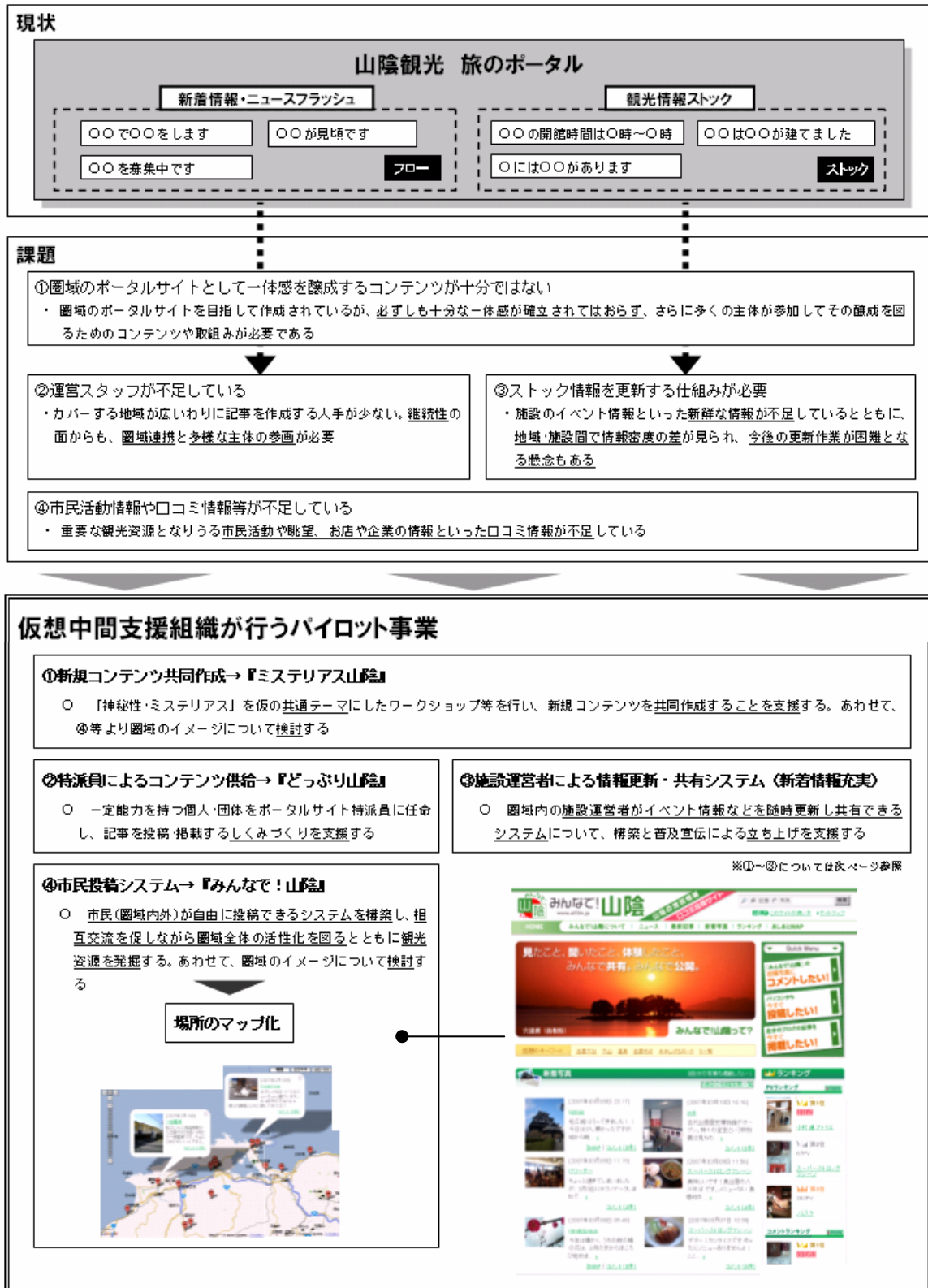
■ 今回取り組むパイロット事業

- (1) ポータルサイト事業
 - ①新規コンテンツ共同作成
 - ②特派員によるコンテンツ供給
 - ③施設運営者による情報更新・共有システム
 - ④市民投稿システム
- (2) 圏域内情報効率化事業
ポータルサイト及びフリーペーパー
- (3) 圏域外情報共有事業
- (4) 講演会・交流会事業
- (5) インターネット相談事業

(1) ポータルサイト事業

○ 中海・宍道湖・大山圏域の観光ポータルサイト「山陰観光 旅のポータル」について、現状と課題を整理し、それらの課題を解決するためのパイロット事業を実施した。

■ 事業の実施フロー



■ 「山陰観光・旅のポータル」への支援事業イメージ（当該ホームページに加筆）

□ : ポータルサイトの現況解説（構成・内容等）

■ : パイロット事業として支援する内容

①新規コンテンツ共同作成
→『ミステリアス山陰』

■ 今月の特集

投稿記事から選考して取材。記事として掲載されている。

■ 今月の特集

投稿記事から選考して取材。記事として掲載されている。

■ 施設情報の更新

各エリアの観光施設情報が掲載されている。

③施設運営者による情報更新・共有システム（新着情報充実）

■ 新着情報トピックス

投稿された各エリアの新着情報が掲載されている。

■ 最新イベント情報

投稿された各エリアのイベント情報が掲載されている。

■ 特派員記事

特派員からの様々な分野について定期的なコラムが掲載されている。

②特派員によるコンテンツ供給
→『どっぶり山陰』



1) 事業の背景と目的

鳥取県、島根県の両県にまたがる観光ポータルサイトとして、以下の3つが挙げられる。

- 「山陰観光 旅のポータル 神々のふるさと山陰」(運営：中海・宍道湖・大山圏域観光連携事業推進協議会)
- 「さんいん旅ねっと」(運営：一畑電鉄(株))
- 「鳥取県、島根県の観光情報サイト」(運営：山陰観光連盟(JR西日本、鳥取県観光連盟、島根県観光連盟))

今回は、圏域の一体的な観光振興を目指して、各商工会議所が中心となって関係自治体も参加するなど最も多様な主体が関連して設置・運営しており、県境を意識させない利用者の使いやすさ・わかりやすさを重視したサイト構成であって、掲載されている情報が充実し、他のホームページとのリンクも充実している点で、「山陰観光 旅のポータル 神々のふるさと山陰」(以下、「旅のポータル」という。)について、その充実を支援する。

「旅のポータル」の運営には、各商工会議所が中心となって関係自治体やNPO、民間企業も参加する「中海・宍道湖・大山圏域観光連携事業推進協議会」の中で、米子商工会議所が中心となった情報発信委員会において運営を行っている。このポータルサイトは、中海・宍道湖・大山圏域の一体的な情報発信を行うことを目的としているものの、必ずしも十分な一体感が確立されてはおらず、さらに多様な主体が参加することで、その醸成を図ることが求められている。

観光面で一体的な圏域として売り出していくことは、地元の意向や観光動向の実態等を見ても有効であり、圏域のイメージや情報を総合的に発信することのできるポータルサイトを構築していくことが求められる。

そこで、圏域の観光ポータルサイトとして、より多くの関係者の参加を促し、圏域を代表するポータルサイトとしての内容の充実を図るとともに、それにより連携に向けた機運の盛り上げに期待する。

2) 現状の整理

「旅のポータル」の情報コンテンツについては、大きくフロー部分とストック部分に分けられる。

フロー部分については、新着情報やニュースフラッシュ、特集記事や運営者による記事投稿のコーナーがある。特に、新着情報やニュースフラッシュについては、RSS(自分のホームページの更新状況を自動的に他のリンク先のホームページに反映できるしくみ)に対応したホームページから自動的に寄せられる情報や、サイト運営者で収集・整理した情報を随時掲載している。

ストック部分については、観光施設や観光スポットの情報、圏域までのアクセスや旅行便利サイトとのリンク等があり、現在も情報の一部追加を継続して行っているものの、すでに一通り整備されている状況にある。

3) 課題及び仮想中間支援組織が展開するパイロット事業

本サイトの機能及び運営上の課題としては、大きく4つあり、各々に対応する形で、仮想中間支援組織が展開するパイロット事業を設定した。

i. 圏域のポータルサイトとしての一体感を醸成するコンテンツの不足 → 新規コンテンツ共同作成

- ・圏域の一体的な観光振興を目指して、各商工会議所が中心となって関係自治体も参加するなど多様な主体が関連して設置・運営しているものの、圏域内外の市民や圏域全体の各種団体に対して、圏域を代表するサイトとしての理解が十分には広がっていない。
- ・このため、利用者を含めたより多くの主体が本サイトの運営・制作に関わり、一体感を醸成するコンテンツの作成を行い、一体的な圏域を強く意識した情報発信を行うことが求められる。
- ・仮想中間支援組織が展開するパイロット事業では、当圏域の歴史・文化的特性を踏まえた上で「神秘性・ミステリアス」を共通テーマにした新規情報コンテンツを多様な主体の参加により共同で作成することを支援した。具体的には、当圏域の大きな特色である神話、古代歴史文化等を軸に、圏域のイメージとして「神秘性」「ミステリアス性」「癒し」「スピリチュアル」といったキーワードに当てはまるエリア内の実際の場所をポータルサイト上で一般募集するとともに、関係者でワークショップ等を行いながら情報を収集し、運営者で整理・発信した。あわせて、後述の市民投稿システム事業等により、「神秘性・ミステリアス」以外の圏域のイメージについても検討した。

ii. 運営スタッフの不足 → 特派員によるコンテンツ供給

- ・発信する情報の魅力を高め、リピーターを増やしていくためには、新鮮な情報を収集し、質の高い記事を作成して常時更新することが重要である。現在、運営スタッフが様々なメディア・方法を使って収集しているが、圏域が広いことから膨大な労力が必要であり、人手が不足している状況にある。
- ・継続してサイト運営を行っていく観点からも、多様な主体の参画により、各自の得意な分野を活かして記事を作成してポータルサイトから発信することが有効と考えられる。
- ・仮想中間支援組織が展開するパイロット事業では、現在運営スタッフ3人で週に1、2度記事を投稿しているコーナーについて、圏域内の多様な主体の参加を可能とするシステムに充実し、各々に参加の働きかけることによって支援を行った。
- ・具体的には、仮想中間支援組織スタッフのネットワークを活かして、圏域内の旬の観光情報を提供する特派員（テーマ別）を各県10名、計20名程度選出し、継続的な記事投稿を依頼した。

iii. イベント情報を更新するしくみの不足 → 施設運営者による情報更新共有システム

- ・前項と同様に、観光施設やスポットの情報については、一度情報を作成してしまうと、更新まで手が回りにくいととも、当該施設で行われるイベントや季節ごとの見所、開館時間の変更といった情報が集まりにくく、更新しづらいのが現状である。
- ・ポータルサイトでは圏域内の新着情報についてはRSSによる情報更新機能を有しているが、対応しているホームページが少ないとともに、各々の施設のホームページ自身の情報が

更新・作成されないため、十分な情報が寄せられない。これをカバーするため、現在は「旅のポータル」運営者が各観光施設等取材して情報収集を行っているが、継続してサイト運営を行っていく観点から、各観光施設等の関係者に自らが、直接「旅のポータル」に情報を提供することが考えられる。

- ・ 仮想中間支援組織が展開するパイロット事業では、施設管理者等がポータルサイトに対して施設情報の更新に関する情報やイベントの情報などを気軽に提供できるシステムの構築と、当該システムへの参加呼びかけに対して支援を行った。

iv. 市民活動情報や口コミ情報等が不足 → 市民投稿システム

- ・ 「旅のポータル」は、圏域内の観光施設やスポットについて、洗練された写真や文章をもって重点的に情報が整理され、発信されている。しかしながら、近年、市民の日常生活・活動や“まち”そのものの体験を目的とした観光、いわゆる「観光まちづくり」が盛んになっているとともに、インターネットの普及により、市民活動情報や口コミ情報等が重要な観光・情報資源となりつつある。しかし、口コミ情報等については現時点では当該サイトに掲載されていない。
- ・ そこで、仮想中間支援組織が展開するパイロット事業では、市民が日常的に体験・取り組んでいる事柄について自由に投稿し、意見交換できるサイトを構築した。

① 新規コンテンツ共同作成→『ミステリアス山陰』

○圏域の一体感の醸成を図るため、「神秘性・ミステリアス」を仮の共通テーマとしてとりあげ、多様な主体の参加による新規コンテンツの共同作成を支援した。

- ・「神秘性・ミステリアス」に関心のある団体等に声をかけてワークショップを開催した。
- ・ポータルサイトにて、一般市民向け「あなたが感じた山陰のミステリアススポット教えてください！！」アンケートを実施した。

■ 新たに作成したホームページコンテンツの一部

HOME | ミステリアススポット > 加賀の渚戸・新渚戸(かかのくぼとしんくぼと)

ミステリアス山陰・おすすめスポット

加賀の渚戸・新渚戸(かかのくぼとしんくぼと)

断崖絶壁の岩肌に作り出された2つの洞穴。神の誕生地と伝わり、鬼気迫る雰囲気にも身震い。

◆ミステリアス総合評価 ★★★★★

神秘性	★★★★★
歴史性	★★★★★
畏怖性	★★★★★
癒し性	★★★★★
アプローチ難易度	★★★★★

神秘性

歴史性

畏怖性

癒し性

アプローチ難易度

◆ REPORT

「渚戸」とは、もともと洞窟のこと。松江市の北部、加賀という地区にある洞門で、景勝地としても穴場スポットだ。とりわけ加賀の夕景も佳景として知られ、密やかなデートスポットともなっている。また、島根半島の渚戸島から続く新渚や入り江の海岸線は、大山麓国立公園に指定されるほど。

旧渚戸・新渚戸は遺跡で、古くに旧渚戸は「仏渚戸」、新渚戸は「神渚戸」と呼ばれていた。この呼び名からして、すでに神秘的な気がする。近くまで徒歩道も整備されているが、旧渚戸と新渚戸の両方を巡る観光船をぜひお薦めしたい。

新渚戸こと「神渚戸」は東・西・北と3つの入口が、1まわりと開いた広い洞穴なので観光船を乗り入れ、探検できる。長年の雨割によって削り上げられた自然洞は壮大で神々しい。船が洞穴に近づくと、それまでの好奇心が畏怖の念に変わっていく。船は「神渚戸」の西口から入る。すると、水しぶきの乳乳が……。この水にかかると洞穴から出られない、という言い伝えに船上で思わず身震えてしまう。何だかゾクゾクと感してきた。

洞穴の中に船が漂いと鳥居が見えてくる。『出雲国風土記』には、佐太次神(松江市鹿島町の祭神)がここでお生まれになったとある。かつては加賀神社が鎮座する神地として、深く信仰されていたという。今でも古くからの信仰心が浮遊しているのだろう、自ずと神秘的な気持ちになる。

出口となる東口でも、水がしたたり落ちてくる。この水は「乳水」と呼ばれ、母乳の出ない母親が飲めば、お乳が出るといわれる。

さて一方、旧渚戸こと「仏渚戸」、こちらには船を降りて上陸できる。仏渚戸は死んでしまった子どもの魂が集まる「暮(せい)の河原」。石が積み上げられ、子どもが着用した着衣やまものが供えられている。幾世代も経て風化した供え物、その上に新しく積み上げられた石。海潮にさらされた無数の石の塔は物悲しい。

「仏渚戸」の内側は薄暗い。臭気を感じる「ワウ」があり、寒気さえ感じて恐怖心が湧き上がってきた。この恐ろしいのは遠く地のジェットコースターなどの比ではない。「仏渚戸」の正面に見える柱状洞はキャンプ場があり、このキャンプ場では雨になると子どもの声を聞くそうだ。

神渚戸は荘厳なパワー、仏渚戸はミステリアスなパワー。いずれもかなりハイレベルのエネルギー。観光船が運航しているスポットなんて、とあるなどことなけれ。

体験談・ご意見 掲示板

現在リストアップされている ミステリアススポット

- 加賀の渚戸・新渚戸
- 金屋子神社
- 長保園行台の樹にある鳥居
- 水木しげるロード
- 踏舞式津重
- 徳島公園
- 丸まぼんだ道祖
- 空道津の夕日
- 鬼の舌巻
- 赤松の池
- 加賀の渚戸・新渚戸
- 出雲大社・神在月
- 太山寺
- 水木しげるロード
- 踏舞式津重
- 徳島公園
- 丸まぼんだ道祖
- 空道津の夕日
- 鬼の舌巻
- 赤松の池

他にもここぞというスポットがあればお知らせ下さい。

● 応募フォーム

一般市民からの公募及び関係者ワークショップによるミステリアススポットの整理

寄せられた情報に基づき、関係者によって評価やコメントを作成・推敲

資料：「山陰観光 旅のポータル」

1) 事業の経過

時期・月日	事業経緯・出来事
10月～	i. 事業の企画検討 (11月24日) 第1回企画検討会議 (12月25日) 第2回企画検討会議
1月中旬～	ii. 「旅のポータル」での一般公募
2月1日	iii. 関係者ワークショップを荒神谷博物館にて開催
3月5日	iv. 「旅のポータル」でのコンテンツとして作成し公開 v. 関係者への意見、成果、課題等の聴取

2) 事業の実施結果

i. 事業の企画検討

- ・事務局スタッフで企画検討会議を開催し、本事業の必要性や重要性に関する意識の共有を図り、事業の進め方、アウトプットのイメージについて検討した。

ii. 「旅のポータル」での一般公募

- ・一般市民向けに「あなたが感じた山陰のミステリアススポット教えてください!!」と題して、アンケートを実施（～2/15）。圏域のイメージとしての「神秘性」「ミステリアス性」「癒し」「スピリチュアル」といったキーワードに当てはまる圏域内の実際の場所（寺社仏閣、自然名勝等）を一般募集した。
- ・募集の結果、計61箇所（両県内市民27人、その他地域の市民14人から、エリア別には出雲・平田地区：14箇所、松江地区：15箇所、米子境港大山地区：20箇所、他：12箇所）の応募を得た。

■ 市民から集まったミステリアススポットの例

華蔵寺の摩崖仏(不動明王)	出雲國神仏霊場、日本風景街道に組み込まれている華蔵寺の参道を登っていくと、左側の崖に大きな摩崖仏があります。松江城の鬼門にあたり、松江城鎮護のためにつくられたとのこと。足元に、杉井の霊水が湧出しており、大きな杉の林の中に立てられた摩崖仏（不動明王）は、大きな存在感で畏怖を感じます。
田和山遺跡	田和山に壕が見つかって、価値が有るか無いか、保存が必要だと世間を騒がしている時分に、知人と、泥まみれになりながら、上まで登ってみました。すると、ものすごく不思議なんです、茶臼山がみえ、宍道湖が見え、枕木山、など、家も立っているのに、なんだか、古代の風景が見えるような錯覚に陥りました。（ここは、なんだか、すごいぞ、残すべき場所だあ!）はじめ人間ギャートルズの世界に見えたのです。ぜひ、登ってみてください。不思議な感覚に包まれます。 でも、今では、市民病院が立っている、茶臼山は見えないでしょうね。
多古の七つ穴	島根町多古（沖泊）からシーカヤックで30分。幾重に洞窟がつながり、あたかも海の回廊のようになっていました。中央部に入るとまるで大きなホールのように天井も高く、声をあげると・・・独特な響きでゾクゾクとしてしまいました。ここはまったく観光化されていませんが、それだけにアプローチもしにくく、まさに秘境といってもいいかと思えます。
夕暮れ時の宍道湖	夕日もきれいですが、毎日違う表情を見せる湖面と空、雲の色はとても神秘的で癒されます。そして、夕日の沈む先には出雲大社というロケーションは最高です。

- ・市民から集まったミステリアススポットをプロットしたところ、圏域に分散していることがわかり、「神秘性・ミステリアス」を圏域イメージとして確立し、癒しツアーの企画・ルート設定等を行う可能性が見出せた。

■ 市民から集まったミステリアススポットの分布図（オレンジ色の点）



資料：「山陰観光 旅のポータル」

iii. 関係者ワークショップを荒神谷博物館にて開催

- ・圏域のイメージとして「神秘性」「ミステリアス性」「癒し」「スピリチュアル」といったキーワードに当てはまるエリア内の実際の場所について、有識者を集めた中で、ワークショップを通じてピックアップをしたほか、圏域の歴史・文化的な一体性の醸成に向けたコンテンツの見せ方に関する議論を行った。
- ・参加者からは、ミステリアススポットの提示があったのみならず、どのように編集して市民に見せていくか、観光振興につなげていくか、といった専門的な議論やアイデア出しも行われた。

■ ワークショップの様子

○参加団体

境港観光協会、NPO 法人出雲学研究所、NPO 法人大山中海観光推進機構、NPO 法人まちづくりビジネス支援ネットワーク、NPO 法人まつえ・まちづくり塾

○主な内容

- ・圏域の歴史・文化的な一体性に関する議論
- ・神秘・ミステリアスコンテンツのホームページ上での展開方法
- ・各エリアについて、具体的な神秘・ミステリアススポットの抽出

○出された意見の一例

- ・ただ神秘・ミステリアススポットを羅列するだけでなく、神話のストーリー（因幡の白兔など）と組み合わせて示したほうが良い。
- ・各団体のカバーする地域や特長を活かし、材料を持ち寄るなどして役割を分担して作り上げる。



iv. ポータルサイトのコンテンツとして作成し公開

- ・ポータルサイトにて「神秘性・ミステリアス」のコーナーを開設し、ワークショップの成果やアンケート結果等に基づき、順次コンテンツを作成した。結果的に、コーナーのトップページと、36のスポットのページを設け、市民から寄せられたスポットに関する情報も掲載した。
- ・圏域関係者が協力してコンテンツ作成を行い、質の高いコンテンツが完成したものの、ポータルサイト運営者に相当な労力が必要となり、トップページの文章等、関係者が増えた分だけ調整に手間がかかるようになった。

■ 「神秘性・ミステリアス」トップページ

ミステリアス山陰・極めつけスポット

ミステリアス山陰とは

- ◆ 神話の国、ミステリアスなる山陰。
- ◆ 鉄の歴史に培われた、独特の精神風土。
- ◆ これからは「陰」なる国、山陰の時代。

◆ 神話の国、ミステリアスなる山陰。

●山と海と湖、豊かな樹木と水によって構成される神々の住まうところ、山陰。出土した数多くの銅剣に誰もが息を呑んだ、島根県出雲地方の荒神谷遺跡。日本最大級の弥生時代の住居群が発掘された鳥取県の大山山麓、妻木晩田(もきばんだ)遺跡。その他数多くの古代遺跡が発掘され、古代史ファンならずとも大いなる興味を喚起される山陰。

出雲大社、須佐神社、神魂(かもす)神社など、日本創世記の頃からの久遠の歴史を物語る神社や仏閣。

出雲国風土記をはじめとした様々な神話、伝説やいわれが至るところに語り継がれ、未だ知られざる謎が満ちあふれているここ山陰。

●日々改善されているとは言え、交通の利便が必ずしも良いと言えないここ山陰であるだけに、全国の多くの人々には、その全体が謎に包まれた、まさに「正体不明」のエリア、ミステリアスゾーンとしてイメージされているとしてもやむを得ず、かような意味からも、ここでは敢えて「ミステリアス山陰」と銘打ち、皆様に山陰の知られざる一面をご紹介しますこととした。

◆ 鉄の歴史に培われた、独特の精神風土。

●大量の土砂が採取され、砂鉄を採取するための「かんな流し」は、約20kmにも及び弓ヶ浜半島を形成させたと言う山陰の鉄の歴史。中世紀から明治にいたるまで、中国山地の砂鉄と豊富な木材を使って、たたら製鉄がなされ、全国製鉄生産量の大部分をまかなってきたと



団体認定 急冗 掲示板

現在リストアップされている
ミステリアススポット

出雲エリア

- 出雲大社
- 北島国造家まへの旧参道
- 出雲大社の本殿裏
- 猪目洞窟
- 鰐淵寺
- 荒神谷遺跡
- 須佐神社
- 本殿裏の杉の大木
- 日御碕神社

松江エリア

- 岩坂陸基参考地
- 加賀の潜戸・新潜戸
- 華蔵寺の不動明王
- 月照寺の大亀
- 金屋子神社
- 空道の女夫岩
- 城山稲荷神社
- 多古の七つ穴
- 美保灯台の榎にある鳥居
- 黄泉比良坂

米子・大山・境港エリア

- 明智峠の雲海
- 粟島神社

v. 関係者への意見、成果、課題等の聴取

- ・仮想中間支援組織としての事業ということで、事務局の4つのNPO、観光関係者など、圏域の様々な関係者が同じテーブルにつく機会を提供することができたことについて、一定の評価を得た。
- ・従来の既存の組織であれば、協働するきっかけを作ることは難しかったと思われるが、仮想中間支援組織が多様な主体に働きかけて協働の場が提供したことで、圏域の一体感が醸成できた、との意見があった。

- ・圏域の共通イメージの1つとして「神秘性・ミステリアス」を取り上げ、情報を収集・整理・発信できたことで、今後の観光戦略において新たな切り口が見つけられた。
- ・ワークショップ参加者より、圏域の関係者が協力して1つの企画を仕上げる楽しさや効果を体験でき、別のテーマでも共同作成に取り組んでいきたいとの意見があった。
- ・この後も、継続して市民から意見を募集し、充実させていくことになった。

3) パイロット事業の成果

i. 地元の取組みにより深く関連する成果

- ・従来の既存の組織であれば、協働するきっかけを作ることは難しかったと思われるが、仮想中間支援組織の事業として位置づけることで円滑な協働の場が提供でき、圏域の一体感の醸成に寄与した。
- ・「神秘性・ミステリアス」というテーマについてはコンテンツが充実し、県境を越えた表現方法により魅力が向上した。
- ・圏域で広く、多様な主体で議論しながら共同作業を行う楽しさ・実績ができ、今後、他のテーマでの共同作業が進み、交流・連携の活発化が期待できる。

ii. 中間支援組織のあり方に関連する成果

- ・一体感の醸成は、当該地域で活動する多数の主体の力を結集するための重要なしかけであり、このようなしかけづくりは、中間支援組織が担うべき重要な役割である。
- ・特に、複数の地方公共団体にまたがる区域で多様な主体の連携を図るためには、中間支援組織の有する人的ネットワークが効果的に機能する。
- ・ただし、多大な労力と経費が必要となることから、ある程度、中間支援組織が成熟し、活動に余裕が生じた段階から取り組むことも考えられる。

4) 今後の課題・期待される取組み

- ・「神秘性・ミステリアス」コンテンツを活かしたバナー広告の依頼、関連サイトとの連携の依頼
- ・今回のパイロット事業での実績を活かして、別のテーマでコンテンツを共同作成（多様な主体への呼びかけ）
- ・「神秘性・ミステリアス」コンテンツを活かした観光振興事業の展開（ドライブコース、ツアー企画、シンポジウムなど）、リピーター向けの情報の専門性の深化

② 特派員によるコンテンツ供給→『どっぷり山陰』

○圏域連携やポータルサイト運営の効率化に向けて、特定のエリアやテーマに関して多くの知識・経験を持つ個人・団体にポータルサイトの特派員になっていただき、記事を投稿・掲載するしくみづくりを支援した。



【現状】

3人の特派員で随時記事を作成して投稿

○ 仮想中間支援組織から、多様な主体の参加や運営労力の分散化・効率化に向けて、特派員によるコンテンツを供給するしくみを提案

○ 事務局スタッフの既存ネットワークを用いて、特派員を勧誘

関係者への働きかけによる、記事投稿の担い手の充実

■ 新規特派員が担当するテーマ（当初検討）

- ・ 大山のリゾート
- ・ 体験（インドア・アウトドア）
- ・ 皆生温泉
- ・ 妖怪
- ・ 山陰グルメ
- ・ 海の幸
- ・ 大山の山歩き
- ・ 農業・グリーンツーリズム
- ・ 米子周辺の歴史
- ・ 特産品・おみやげ
- ・ 米子町歩き
- ・ 水鳥公園
- ・ 社寺仏閣
- ・ 蕎麦
- ・ お茶
- ・ 和菓子
- ・ 宍道湖の写真 など、30テーマ（目標）



資料：「山陰観光 旅のポータル」

1) 事業の経過

時期・月日	事業経緯・出来事
11月～	i. 企画検討
12月8日	ii. 情報提供の協力体制構築に向けた関係者協議
1月上旬～	iii. 地元関係者への協力依頼
1月23日	iv. ポータルサイト運営関係者説明会
3月2日	v. ポータルサイトへの特派員による情報投稿開始 vi. 関係者への意見、成果、課題等の聴取

2) 事業の実施結果

i. 企画検討

ii. 情報提供の協力体制構築に向けた関係者協議

- ・事務局の関係スタッフにて、両県関係者による協力体制づくりに向けた具体策について協議した。
- ・両県下の観光・地域活動等の関係者で、それぞれのジャンル（食、自然、アウトドア、神話等）・エリアの話題に明るい人を特派員として登録し、情報提供をしてもらうしくみを提案し、各方面へ協力依頼をすることに決定した。

iii. 地元関係者への協力依頼

- ・事務局スタッフの人的ネットワークを活用しながら、両県下関係者に対して特派員としての協力依頼を行った。
- ・鳥取側の特派員確保は容易に進んだ。この理由としては、本事業に深く関わった鳥取を中心に活動をしている事務局スタッフの持つ人的ネットワークが機能したことが挙げられ、同じ人的ネットワークでも人を紹介した程度であった島根側のネットワークは十分には機能しなかった。
- ・特派員制度そのものには関心があるものの、現在抱えている事業で手一杯などの理由から、協力が困難な例が複数見られた。

iv. ポータルサイト運営関係者説明会

- ・中海・宍道湖・大山圏域観光連携事業推進協議会の情報発信委員会が主催して、圏域の観光関係者（自治体観光セクション、観光協会等）に対する「旅のポータル」の内容や情報提供依頼に関する説明会が開催された。その中で、本事業について説明し、特派員についても参加を呼びかけた。

v. ポータルサイトへの特派員による情報投稿開始

- ・特派員からの観光情報を表示する部分が従来の3枠から9枠に拡充され、3月中旬までに15件の新規記事投稿があった。
- ・協力を依頼し、投稿の準備まで進んだものの、投稿いただけない特派員も少なくない。期間が短かったことも大きな原因の1つではあるが、そもそも投稿は参加者の主体性によるものであるため、参加することの意義やモチベーションの創出・維持を図ることが重要である。

■ 新規特派員による投稿記事の例

The image shows a screenshot of a travel portal website. It features two main article cards. The top card is titled '聞いて“おいしい”山陰・そば断' (Listening to "Delicious" San'in Soba) and is written by Gordan Sobe. It includes a small photo of the author and a bowl of soba. The bottom card is titled '皆生温泉・瀬風だより' (All-natural Hot Springs, Seifu no Kaze) and is written by Kenji Hasegawa. It features a scenic landscape photo of a hot spring valley and a photo of swans. Both articles contain introductory text, a list of recommendations, and contact information for the author.

資料：「山陰観光 旅のポータル」

vi. 関係者への意見、成果、課題等の聴取

- 多様な人が記事を投稿することで、ホームページの印象が大きく変わり、より生活や観光に身近なページとして親しみがわくようになった、と好評を得た。
- 従来の記事作成者から、労力が軽減したという効果もあるが、情報の厚みが増したことに意義を感じた、との意見があった。
- 他のポータルサイト運営者から、観光情報・地域情報を収集する上で活用したいとの考えとともに、特派員としての参加の可能性を示していただいた。

3) パイロット事業の成果

i. 地元の取組みにより深く関連する成果

- 特派員による投稿記事の増加により、情報の鮮度・日常性・専門性の面から、ポータルサイトが充実した。
- ポータルサイト運営者の負担が軽減・分散化できた。
- 投稿者の地域づくりに対する意識・関心の醸成が期待できる。
- より多くの主体が参加することが、圏域の情報基盤として存続していく上で有効である。

ii. 中間支援組織のあり方に関連する成果

- 発信する情報内容の充実と、事業を無理なく継続するための運営者の負担の軽減の両立が必要である。このためには多数の主体の参加による労力の分散化が不可欠であり、そ

のためには中間支援組織の有する人的ネットワークが効果的に機能する。

- ・ 中間支援組織の初動期は認知度が低く、どのような活動をする組織なのかも伝わりづらいため、労力の割ける範囲内で、お伺いや説明に出向くことが重要である。また、初動期から多数の多様な主体の参画を募るのは困難であり、徐々に参加者を増やしていくスタンスが重要である。

4) 今後の課題・期待される取組み

- ・ 特派員の参加意欲の維持に向けたしくみづくり（一般市民から特派員に対する応援を投稿するしかけなど）
- ・ 後述の市民投稿システム「みんなで！山陰」で活発な情報提供・意見交換を行っている人への特派員の勧誘、特派員の公開募集
- ・ 特派員の活動を通じた連携・交流の促進による各種事業の展開

③ 施設運営者による情報更新・共有システム（新着情報充実）

○圏域内の施設運営者がイベント情報などを随時更新し共有できるシステムについて、構築と普及宣伝による立ち上げを支援した。

各エリアの関係者（情報提供者）

- ・行政担当課・職員
- ・観光案内所
- ・放送局
- ・旅館組合関係者
- ・各種協議会関係者 など
- ・観光協会
- ・宿泊施設関係者
- ・NPO関係者
- ・観光施設関係者

イベント情報など

中間支援組織の事業

- 情報提供システムの構築支援
- 中間支援組織としての宣伝・参加呼びかけ

新着情報・トピックス RSS	最新イベント情報 RSS
[>> 新着情報・トピックス一覧]	[>> イベント情報一覧]
<p>2007年02月19日 New!! 「縁結びドライブなび」作成記念キャンペーン（2月25日～3月29日）</p> <p>2007年02月19日 New!! 「南部町」とっとり花回廊 クロッカス4万球が満開！ひと足お先に“春”のデコレーション</p> <p>2007年02月16日 [松江・米子]いよいよ梅の花が見ごろです。訪れる春の前に、しばし冬の名残を楽しんでみませんか</p> <p>2007年02月16日 [安来] 足立美術館 無料シャトルバス 3月18日～のダイヤ改正でさらに増便！1日8往復に</p> <p>2007年02月18日 [大山] 大山トムソーヤ牧場 世界最小ミニ豚の赤ちゃんが誕生！</p> <p>2007年02月12日 [松江] 松江フォーゲルパーク ペンギン・コクチョウのヒナが誕生！</p> <p>2007年02月15日 [鳥取・北栄町] 「名探偵コナン」もお出迎え？「青山剛昌ふるさと記念館」3月18日グランドオープン！</p> <p>2006年12月28日 サイトを巡って山陰ゆかりのキーワードを探せ プレゼントキャンペーン第2弾で豪華賞品をゲット！</p> <p>2007年02月13日 縁結びに纏わるナンゾ・噂を検証！ 縁結び観光協会発「縁結び同」が行く！ページが女性の間で話題に</p> <p>2007年02月12日</p>	<p>2007年02月16日 [出雲] 宍道湖自然館ゴビウス “ドクターフィッシュ”で手のひらエステ（～4月16日）</p> <p>2007年02月16日 [出雲] ズワイガニ1杯に、各種食べ放題・飲み放題付きで3000円 島根ワイナリー創立20周年サンクスフェア開催中（～3月31日）</p> <p>2007年01月11日 [出雲] 日御崎神社 和布刈神事（2月22日）</p> <p>2007年02月10日 [松江] 松江市営バスで行く“縁結びミニツアー”（2月23日）</p> <p>2007年02月16日 [島根・津和野] 新酒発表、郷土料理の試食、料理・菓子の展示etc. 津和野 あがみ祭開催（2月24日・25日）</p> <p>2007年01月25日 [南部町] とっとり花回廊 らんまつり（2月24日～3月4日）</p> <p>2007年02月19日 [松江] 第30回本物を作ろう教室[灯ろう教室]（2月25日、3月4日・11日）</p> <p>2007年02月16日 [出雲] 宍道湖自然館ゴビウス 企画展「極東アジアの淡水魚」（2月28日～4月16日）</p> <p>[境港] 宍道湖vs中海 七珍対決（3月4日）</p> <p>2007年02月19日 [松江] 島根県立美術館 企画展「ルソーの見た夢、ルソーに見る夢」（3月9日～5月6日）</p>

資料：「山陰観光 旅のポータル」

1) 事業の経過

時期・月日	事業経緯・出来事
10月～	i. 企画検討・システムの構築
12月8日～	ii. 施設運営者への宣伝活動、関係者への協力依頼開始（チラシの作成）
2月～	iii. ポータルサイトへの関係者からのイベント・施設情報の投稿開始 iv. 関係者への意見、成果、課題等の聴取

2) 事業の実施結果

i. 施設運営者への宣伝活動、関係者への協力依頼開始

ii. 施設運営者への宣伝活動、関係者への協力依頼開始

- ・事務局スタッフの人的ネットワークを活用しながら、両県下の観光事業者に対して情報投稿システムへの参加要請を行った。

iii. ポータルサイトへの関係者からのイベント・施設情報の投稿開始

iv. 関係者への意見、成果、課題等の聴取

- ・スタッフから、中間支援組織という名前があったことにより、県境等を意識しないで広い範囲で登録の呼びかけに行き、聞いてもらうことができた、との意見があった。
- ・スタッフから、登録後も、施設管理者等による情報更新・参加を促していくために、協力の効果を示しながら、システムの意義・効果について継続的に働きかけていくことが必要である。

3) パイロット事業の成果

i. 地元の実践により深く関連する成果

- ・個別施設運営者の投稿によるポータルサイト運営者の負担の軽減・分散化が期待される。
- ・ポータルサイトが充実し、イベント情報が随時更新されていくことが期待される。

ii. 中間支援組織のあり方に関連する成果

- ・発信する情報内容の充実と、事業を無理なく継続するための運営者の負担の軽減の両立が必要である。このためには多数の主体の参加による労力の分散化が不可欠であり、そのためには中間支援組織の有する人的ネットワークが効果的に機能する。

4) 今後の課題・期待される取組み

- ・施設運営者の情報更新・共有システムへの参加拡大
- ・時間をかけた宣伝活動、施設管理者の労力負担の軽減化等の課題の改善